

社会的相互行為としての謝罪表現

一言語表現選択の背景には何があるのか

山本もと子

キーワード：ウチ・ソト・ヨソ、性別、年齢、社会的立場、「負い」の意識

要旨

日本語の謝罪表現には様々な種類があるが、代表的なものは「すみません」「ごめんなさい」の二つである。これらはまったく同じ条件の下で発話されるわけではない。話し手は発話する前に、意識的または無意識的に、謝罪するに至った状況や話し手と聞き手との人間関係を判断し、どの表現を使用するか選択している。そこで、テレビドラマのシナリオから「謝罪」と取れる表現をすべて抜き出し、これらをウチ・ソト・ヨソの関係に分類し、次いで性差、年齢差に分けて分類した。その結果、女性より男性、年上より年下の方が謝罪する回数が多いことが分かった。また、社会的立場が弱い方が強い方より謝罪する回数が多く、立場が強い方が謝罪する場合、「すみません」はほとんど使用しないことが分かった。

1. はじめに

日本語教育の分野では、近年ますます社会言語学的観点から分析した日本人の言語行動に関する研究が注目されるようになってきている。なぜなら、母語としてではなく外国語として日本語を学んだ学習者（以下、学習者）が、日本社会において、文法上正しい日本語を話していても誤解が生じてしまう例が少なくないからであろう。特に、まだ日本での生活体験が短い学習者や日本人との交流が少ない学習者ほどTPOに応じた表現を使う難しさを痛感しているに違いない。これは、社会言語学的研究内ではよく言及されていることだが、日本語に限らず、言語行動というものが文化や社会と深く関わっていることを裏付けている。従って、日本語教育においても文法学習だけではなく、社会言語学的観点から日本人の習慣や思考パターン、日本社会のしくみなどを研究し、学習者の適切なコミュニケーション能力を育てていかななくてはならないと考えられる。

筆者は以前、「すみません」という言葉が丁寧さのストラテジーとして用いられている発話行為であり、謝罪と感謝の両方の意味を持っていること、また、話し手に少しでも「自責の念」がある場合「すみません」が選択され、感謝の気持ちだけの場合「ありがとう」が選択されることを論じた(山本 2002)。そこで、日本語では話し手と聞き手の心理的距離や社会的距離、謝罪や感謝の対象、話し手の心理状態が「すみません」や「ありが

とう」のような言語表現の選択にかなり影響していることから、これらの要因を分析することを試みた。この分析は日本人社会や日本語を理解する上で非常に重要であり、今後ますます盛んになると思われる。

従って、本稿では、発話行為のひとつである「謝罪」を例にとり、話し手が聞き手との人間関係によってどのような謝罪表現を選択するかに焦点を当て、社会言語学的観点から日本人の言語行動を分析する。特に、欧米人と比べて日本人の心理的距離がどう異なるかは非常に重要な問題なので、まずは話し手と聞き手との人間関係を分析する前に、日本人が自己と他者との関係をどのように捉えているかについての先行研究を概観してみる。

2. 先行研究

2-1. ウチ・ソトモデル

まず、ウチとソトの定義を広辞苑で調べてみると、「自分の属する側または身近なものを『内』というのに対して、その反対のものを『外』とする」とある。例えば、自分の夫を指して「うちの人が」と言ったり、他会社の人と話すときに自分の会社の人間を指して「うちの社長が」と言ったりすることがある。これは、日本人がいつも自分と聞き手との心理的・社会手距離を見極めながら日本語を話すという特性をよく表している。教授に対しても近所の少年に話すのと同様に‘you’で表すことができる英語と比較すると、日本語では「先生」「お前」「あなた」など幾通りもの言い方ができる言語である。言い換えると、日本語は「聞き手との人間関係」によって言語表現が選択される言語なのである。

学習者が敬語を苦手だと言う理由の多くは、この「聞き手との人間関係」を見極めることが難しいからである。なぜなら、自分の会社では上司に対して尊敬語で「課長が食事に連れて行ってくださいました」と話すのに対し、聞き手が他会社の人間だと、同一人物を指すのに謙譲語で「明日、うちの課長が伺います」と言わなければならないからである。このように、聞き手にとっての自分の立場が変わる度にそれに対応した敬語表現を使用しなければならないのが日本語である。

これは日本人が欧米人より自己とウチの関係を強く意識し、ソトの関係の人間に対して一歩距離を置いて接するためである。このウチ・ソトの関係と敬語使用について井出(1992)が次のように述べている。

「日本人は相手との関係で自分を規定し、それに応じた行動をすることを重視している。相手との人間関係の規定の仕方に、ウチ・ソトという二つのカテゴリーに分けるパターンがあり、その二つの領域をわきまえて行動することが一つの社会的ルールである。言語使用においてもこのルールに則り、ウチ・ソトをわきまえて言語表現を選択することが『わきまえ方式』による敬語使用ということになる。(中略)

わきまえ方式に則ることが円滑なコミュニケーションになる理由は、まず第一に、規範どおりの言語使用は相手を脅かすことがないこと、第二に、相手との共通の規範を守ることによって相手に共感感覚を与えることになるからである。」

また、日本人の人格構造をアメリカ人と比較して、自己と社会の関連によって説明している（図1）。

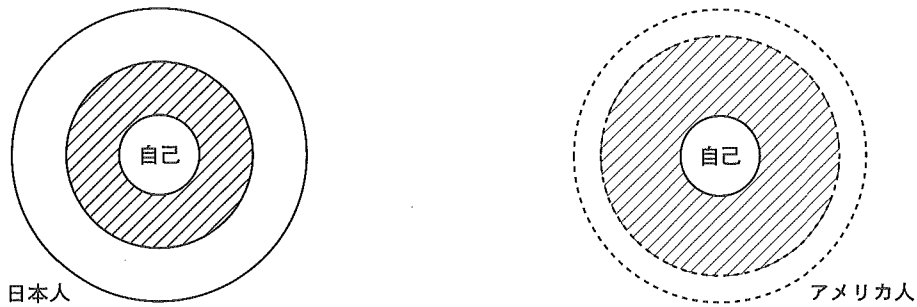


図1. 日本人とアメリカ人の人格構造（井出1977より）

この図によると、自己のまわりの円（斜線部分）が日本人では狭く、アメリカ人では広い。これは日本人がアメリカ人より「内」の関係で付き合える人間が少なく、アメリカ人では多いことになる。つまり、日本人はアメリカ人ほど容易に心を開かないと言える。一旦心を許すとプライベートな質問をしたり、意見を言ったりするなど非常に親しくなるが、「外」の関係の人間がそのような「内」の関係に移行するまではかなり時間がかかる。来日して早く日本に慣れたいと願っている学習者が、近所の人や同じゼミの人となんとか親しくなろうと努力しているのに、「なかなか輪に入れない」とか「いつまでたっても他人行儀だ」と感じるのはこのためである。その反面、日本人は「内」の人間に対しては、ずかずかと個人の境界に踏み込んでいくので、日本人と親しくなるにつれて「結婚は？」「子供は？」と質問された学習者はこのような態度をプライバシーの侵害と感じることもある。

つまり、日本人は自己と「内」の人間関係が密接で、「内」の人間との付き合い方がアメリカ人に比べて個人的なので、「外」の人間を容易に仲間に加えることができないのである。一方、アメリカ人は自己を確立するために自己と他人はしっかり区別しているが、すぐにファースト・ネームで呼び合うなど「外」の人間を「内」に引き込む文化であると言える。

2-2. ウチ・ソト・ヨソモデル

しかし、三宅（1995）は自分あるいは「内」に関連のある「外」のグループと関連のない「外」のグループとは分けて考える必要があり、社会言語学的分析の枠組みとして、自己を取り巻く人間層をウチ・ソト・ヨソに分けることを提唱した。三宅の説明では「ウチの人間は自己のまわりの家族やごく親しい人々、ソトの人間はごく親しくはないが自己やウチと関連のある人々、ヨソの人間は自己やウチとは関係ないがなにかのきっかけで関係をもちえる人々（例：通行人、電車などでまわりにいる人々、サービス業の人など）」である。さらに、三宅は英米人との比較によって、日本人の特性を明確に説明している。（図2）

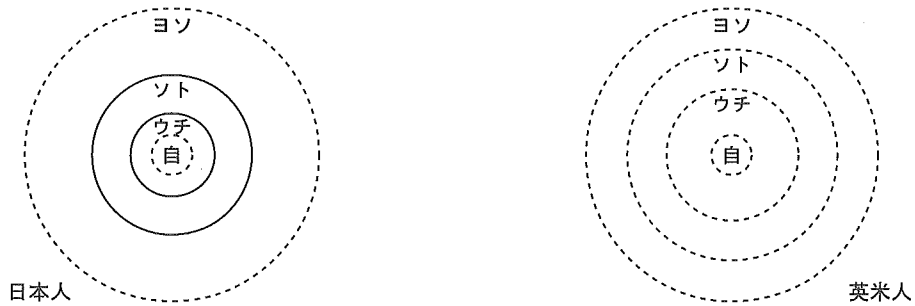


図2. ウチ・ソト・ヨソモデル (日・英米比較) 〈三宅1995より〉

まず、日本人の図を見てみると、自己とウチの境界は点線で示されているように、時に曖昧となるが、ウチとソトの境界とソトとヨソの境界はハッキリと実線が引かれている。しかし、環境の変化によってソトの人間がヨソにスライドしたり、逆にヨソの人間がソトに、あるいはもっと深い関係のウチにスライドしたりすることもある。例えば、仲の良かったソトの人間のご近所さんが引越して疎遠になりヨソの人間になったとか、結婚したことによって今まで面識がなくヨソの関係にあった夫の両親がウチの人間になる場合である。

次に、英米人の図を日本人の図と比較してみると見ると、まずウチ・ソト・ヨソの層の幅が均等であり、日本人の自己がウチと非常に近い関係にあるのに比べて、自己とウチの間には十分な空間がある。また、ソトとヨソの境界もハッキリしたものではない。つまり、ウチ・ソト・ヨソの境界線は日本人に比べて弱いものであり、スライドしやすい傾向があるといえよう。三宅は英米人が初対面でも、なるべく早いうちにファーストネームで呼び合おうとする傾向やまったく知らない人にでも気軽に声をかけたり冗談を言ったりする傾向を例にとって、このような環境ではソト層の人間をウチ層の人間のように待遇したり、ヨソ層の人間をソト層に引き込もうとすることが、「ポライトネス」につながる人が多いと述べている。一方、日本人の「ポライトネス」は敬語使用に顕著のように、ソト層の人間をウチ層の人間と区別する待遇や言語表現をすることで実現されることが多い。

では、実際、日本語ではどのような言語表現によってソト層の人間とウチ層の人間を区別するのか検証する前に、謝罪行為が行われるメカニズムについて考察する。

3. 謝罪行為が行われるメカニズム

まず、「謝罪」という発話行為が行われるメカニズムについて次のように仮定する。

- ① 話し手が起こした言動により聞き手に不利益や不快感が生じる。
- ② 話し手と聞き手との人間関係に不均衡が生じる。(話し手 ≤ 聞き手)
- ③ 元の快適な状況に修復するために話し手が謝罪をする。

これは熊取台 (1991) が、「感謝」という発話行為が行われるメカニズムを、

話し手にとって「快適状況が生じ (たと判断す) ることにより、話し手は聞き手に対するある種の『負い』を持つこと」が前提にある。それゆえに、「話し手は円満な人

間関係を保持するためにはこの不均衡を修復するための方策を講じなければならない」

と考え、「感謝」という発話行為によって再びバランスの良い人間関係を手に入れると説明しているが、この「負い」の意識が謝罪にも働いていると言える。つまり、話し手が謝罪という発話行為に至るには「自分に非がある」と認めることが前提である。

この「負い」の意識を、三宅（1993）は「借り」の意識と表現している。三宅は日本人とイギリス人に対して、感謝と詫びの言語表現について行ったアンケート調査の結果から、「すみません」のような詫び表現がどのような条件において感謝の意味で使われるか、次のように考察している。「詫び表現が選択される決定要素として、（1）目上・目下／親・疎の差、（2）相手の負担の軽重、自分の利益の大小、借りの有無があり、（1）は（2）より優先される。」（1）の「目上・目下」は4-2で見た社会的地位の差であり、「親・疎の差」はウチ・ソト・ヨソの関係である。筆者はこれらに加えて、話し手と聞き手の性差と年齢差が謝罪表現の選択に少なからず影響を与えていると考え、その2点に関して謝罪表現を検討する。

4. 調査・検証

4-1. ウチ・ソト・ヨソによる分類

代表的な日本語の謝罪表現は「ごめんなさい」「すみません」「申し訳ございません」などが挙げられる。これらは話し手が発話する前に、意識的または無意識的に、謝罪するに至った状況や話し手と聞き手との人間関係を判断し、どの表現を使用するか選択している。では、どの表現が一番よく使用されるのであろうか。テレビドラマのシナリオから謝罪と取れる表現をすべて抜き出し、これらをウチ・ソト・ヨソの関係で分類してみた（表1）。

	ウチ	ソト	ヨソ
すみません系	5	117	25
ごめんなさい系	46	138	8
悪い系	8	45	3
申し訳ない系	0	40	1
その他	0	30	2
合計	59	370	39

表1. ウチ・ソト・ヨソ別 謝罪表現

結果として、テレビドラマのシナリオ内では「ソト」が圧倒的に多く、「ウチ」と「ヨソ」に関してはかなり少なかった。表1について、大まかにまとめると以下のことが言える。

- (i) ソトの関係にある聞き手に謝罪する場面が一番多い。
- (ii) ウチの関係では「ごめんなさい」系が一番多い。
- (iii) ソトの関係では「ごめんなさい」系が一番多いが、次いで「すみません」系も多い。
- (iv) ヨソの関係では「すみません」系が一番多い。

前述したように、「ごめんなさい」と「すみません」が圧倒的に多いが、ソトの関係は非常に種類が多く複雑なので、もっと細かい分類が必要になってくる。また、ウチ・ソト・ヨソの明確な基準がないので、どの層に分類すればよいのか判断に迷うこともある。例え

ば、初めはただの知り合いでソトの関係だった男女が恋愛感情を持ち、次第に恋人や婚約者になっていった場合、どの時点からウチに加えてよいのかを見極めるのは難しい。従って、ウチ・ソト・ヨソの関係だけでどんな謝罪表現を選択するかという決定はできない。

4-2. 話し手と聞き手の種類による分類

では、話し手は聞き手との人間関係がどんなときに一番多く謝罪するのだろうか。一般的に弱い立場だとみなされている方がよく謝罪する傾向にあると予測されるが、実際はどうであろうか。不等号の開きが小さい方が弱い立場と考えられている側である。

- (i) 性差：男性 \geq 女性
- (ii) 年齢差：年上 \geq 年下
- (iii) 社会的立場の差：上 \geq 下

しかし、話し手と聞き手の性別と年齢によって種類を分類した結果、性別に関しては予想と違っていた(表2)。

順位	話し手(謝る側)	聞き手(謝られる側)	回数
1	女性、年下	男性、年上	86
2	男性、年上	男性、年下	80
3	男性、年下	男性、年上	78
4	男性、年上	女性、年下	60
5	男性、年下	女性、年上	26

表2. 謝罪表現が多かった環境

どんなジャンルのシナリオを選択したかにもよるかもしれないが、1位以外は謝り手が男性である。これは社会的に男性の方が謝る立場に立たされることが多いことを表している。また、年上が年下に謝る場面も少なくなかった。謝罪表現を含む会話を分析した結果、謝罪表現の決定要素としてウチ・ソト・ヨソの関係以外に以下の項目が挙げられる。

- (i) 性差：男性が謝罪する場面の方が、女性が謝罪するより多い。
- (ii) 年齢差：年下が謝罪する場面の方が、年上が謝罪するより多い。
- (iii) 社会的立場の差：社会的立場が下の人間の方が謝罪する場面の方が、上の人間が謝罪するより多い。

性差と年齢差に関しては表2の通りだが、社会的立場の差について補足しておこう。社会的立場の差がある例として以下の例があった。(a)～(e)は社会的立場が弱い方が謝罪する例、(f)～(h)が強い方が謝罪する例である。

(a) 教師 \geq 学生

杏子(中学生)：「すみません、先生、おかまいも出来なくて」

葉子(担任)：「いいのよ、そんなこと、あなたが、弟さんと妹さんの面倒をみてるんだって？」

(『職員室』1997)

(b) 教師≧中学生の親

葉子（担任）：「こんにちは。」

清子（母親）：「すみません、三者面談さぼっちゃって。」

葉子：「いいえ。」

(同上)

(c) 店長≧店員

タクミ（店員）：「遅くなりました。」

店長：「定例会議は、始業時間の3時間前って言ってあるだろ。」

タクミ：「すみません。きのう、眠れなくて・・・」 (『Beautiful Life』2000)

(d) 裁判長≧弁護士

裁判長：「私に向かって喋りなさい。裁判長は私なんだから。」

仁太郎（弁護士役）：「(小声で) すみません。映画のイメージがあったものですから。

ポール・ニューマンが確か・・・。」 (『合い言葉は勇気』2000)

(e) 俳優≧テレビドラマの制作スタッフ

仁太郎（俳優）：「おい、見てみろ！」

AD：「はい？」

仁太郎：「俺が倒れるところ。ホラ、ちょうど床の境い目になってンじゃねえかよ。

痛いんだよ。ちゃんとガムテ貼っとけよ、バカヤロ。」

AD：「すいませんっ」

(同上)

(f) 教師≧小学生の親

涼子（教師）：「ごめんなさい。」

五郎（純の父親）：「何がですか？」

涼子：「この前。・・・ご相談うけたとき・・・冷たい返事しかできなくて。」

(『北の国から』1988)

(g) 村長≧村民

犬塚（村長）：「行ってこい。」

忠志（村民）：「えっ。」

犬塚：「話、聞いてこい。」

忠志：「(呆れ返って)・・・僕ですか？」

犬塚：「オレが行くと、長くなるから。」

忠志：「・・・(困惑)」

犬塚：「(申し訳なさそうに) 悪い。」

(『合い言葉は勇気』2000)

(h) 脚本家≧テレビドラマの制作スタッフ

二谷 (脚本家): 「(電話で) ハイ、ああ! ごめん! 今かけようと思ったとこ。いや
まいったよ、ゆうべ、かみさんが急に熱を出しちゃって・・・イヤもうほとんど
書き上げた。あともう少し。30分かな。最後のところでつまずいちゃって・・・
イヤ本当だよ、30分・・・念のため40分ちょうだい。」

中原 (AP): 「40分ですね。本当に40分で送ってくれますね。」 (『玩具の神様』1999)

これらの例から判断すると、社会的立場が弱い方が謝罪する場合は「すみません」を使用し、強い場合は「ごめん (なさい)」「悪い」を使用している。では、「すみません」と「ごめんなさい」の違いはなんだろうか。どのような違いによって、それぞれの謝罪表現が選択されるのであろうか。この違いは、三宅 (1993) が「詫び表現が選択される決定要素」の (2) で挙げた「相手の負担の軽重、自分の利益の大小、借りの有無」によるものであり、熊取台 (1991) が「負い」の意識と表現したものと考えられる。

4-1 で見たように、一番発話回数が多い「ごめんなさい」系に関して述べると、ウチの関係では圧倒的に多く、ソトの関係でも一番多かった。これは「ごめんなさい」が謝罪以外に意味を持たないことから、話し手がはっきり「負い」の意識を持っていると考えられる。一方、ヨソの関係では「すみません」系が一番多く、ソトの関係でも「ごめんなさい」系と同じぐらい多く使用されていた。ヨソ層の人間とは、上記に述べたように通行人とかサービス業の人など、そのとき限りの付き合いしかしない。つまり、話し手は「負い」の意識を持って謝罪するというより、形式的な挨拶の代わりとして「すみません」を使用しているのではないだろうか。「すみません」が謝罪以外に「呼びかけ」や「感謝」の意味でも使用されることから考えても、「すみません」が必ずしも「負い」の意識を含んで使用されているとは言い切れない。

4-3. その他の決定要素

しかし、次の例のようにウチの関係でも話し手の性格によって「すみません」が使用されることがある。(i) の純のように普段から父親に対して丁寧な言葉遣いだったり、(j) の正夫のように少し気弱で、特に車椅子生活をしている妹に気を遣っていたりするなど特殊な事情がある。また、(k) は交際相手を次々に替えるなど不安定な生活をしている郷子と堅気の姉、高代との会話であるが、郷子は以前にも高代に迷惑をかけたことがあり、それを負い目に感じているので、実の姉 (ウチの関係) でありながら、他人行儀な謝罪をしている。

(i) 五郎: 純君

純: ……

五郎: どうしても東京に帰りたいんですか。

え？

純：ハイ。

五郎：・・・（間）

どうしてもがまんできませんか。

純：ハイ。（間）

五郎：そうですか。（間）

純：すみません。でも・・・

五郎：・・・

純：お願いします。

五郎：・・・

純：ぼくは・・・

五郎：・・・

純：おこらないでください。（純、頭を下げ二階へ行こうとする。）

五郎：純君。

純：・・・

五郎：父さんは・・・おこっちゃいません。

純：すみません。

五郎：ただ・・・

純：・・・

五郎：かなしいです。いま・・・。非常にかなしいです。

純：・・・

（『北の国から』1988）

(j) (杏子の家へ友達のサチが遊びに来ている。杏子の兄、正夫が杏子の部屋に缶ビールや柿の種を持ってきて、二人の話に加わろうとする。)

杏子：お兄ちゃん、何？ 行けば。

正夫：いいじゃんかよ。お兄ちゃんもたまには。

サチ：あ、どうぞどうぞ。あ、ほら、杏子、ビールも3つあるよ。

(杏子、そのビールを一缶取って、フンッと差し出す。兄に。)

杏子：はい、お兄ちゃんの。

サチ：杏子・・・

杏子：たまにはね、人に聞かれちゃ困る内緒の話もあるの。

正夫：あそ・・・

杏子：こちとら年頃なんだから。

正夫：あいよ。すみませんでした。（と言って、ポテトチップを持って去る。）

（『Beautiful Life』2000）

(k) 郷子：お姉ちゃん・・・

高代：・・・（冷ややかな目で、郷子を見ている）

郷子：すみません・・・

高代：何したのよ、今度は？

郷子：・・・

高代：取り返しのつかないことをしたんじゃないの。　　　　　（『会いたくて』1989）

上記の (i) ～ (k) の例で見られるように、話し手と聞き手との人間関係、つまり、ウチ・ソト・ヨソの関係や、話し手と聞き手の性別、年齢、社会的立場以外にも謝罪表現を選択する決定要素は考えられる。例えば、性格もそのひとつだが、話し手が聞き手との心理的距離を開けるためにわざと敬語を使ったり、親しさを表すために友達言葉を用いたりするなど、話し手の心理状況も大きな影響を与えているのではないだろうか。

5. 結論

本稿は「謝罪」という発話行為を例にとり、言語表現が何によって選択されるかを解明しようと試みた。その結果、話し手と聞き手の人間関係、特にウチ・ソト・ヨソの関係、性別、年齢、社会的立場に影響されることが分かったが、それら以外にも様々な条件が影響して、その場面に適した言語表現が選択されていると考えられる。

今回は調査対象としてドラマのシナリオを分析したため、ウチとヨソの関係に対するデータが少なかったので、今後、生のデータを分析してさらに深く追求していきたい。

また、時代の流れと共に、言語を取り巻く環境は刻々と変化しているため、男女の話し言葉の差が縮まり、コンピューター言語や若者言葉の氾濫によって年配者と若者の言葉遣いの差は開く一方である。従って、日本語教育上、今後ますます社会言語学的観点から言語と社会の関わりについての研究が必要になってくるであろう。

引用文献

- 井出 祥子 1977 「英語敬語の理解と翻訳」『英語文学世界』1月号 英潮社
1992 「日本人のウチ・ソト認知とわきまの言語使用」『言語』第21巻12月号 大修館
- 熊取台哲夫 1991 「日本語における「感謝」の談話構造と表現配列「すみません」と「ありがとう」の場合―」
『広島大学日本語教育学科紀要』第1号
- 三宅 和子 1993 「感謝の意味で使われる詫び表現の選択メカニズム
― Coulmas (1981) の indebtedness 「借り」の概念からの社会言語学的展開―」
『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第8号
- 1995 「日本人の言語行動パターン ―ウチ・ソト・ヨソ意識―」
『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第9号

参考文献

- Brown, Penelope and Stephen C. Levinson, 1987. *Politeness: Some universals in language usage*.
Cambridge: Cambridge University Press
- Coulmas, Florian, 1981. *Poison to your soul. Thanks and apologies contrastively viewed*. In F. Coulmas (ed.), *Conversational routine*. The Hague: Mouton. 69-91.
- Goffman, Erving, 1971. *Relations in public: Microstructure of the public order*. Harmondsworth: Penguin.
- 井出 祥子他 1986 『日本人とアメリカ人の敬語行動』南雲堂
- Matsumoto, Yoshiko. 1988. Reexamination of the universality of face: Politeness phenomena in Japanese. *Journal of Pragmatics*. 12:403-426.
- Meier, A. J. 1995. Passages of politeness. *Journal of Pragmatics*. 24:381-392.
- 三宅 和子 1994 「『詫び』以外で使われる詫び表現 —その多用化の実態とウチ・ソト・ヨソの関係—」
『日本語教育』82号 日本語教育学会
- 水谷 修 1982 「外国語としてみた日本語の言語行動」
『外国語との対照Ⅲ』講座日本語学12 寺村秀夫編 明治書院
- 中田 智子 1989 「発話行為としての陳謝と感謝 —日英比較—」
『日本語教育』68号 日本語教育学会
- 佐久間 勝彦 1983 「感謝と詫び」『話し言葉の表現』講座日本語の表現3 水谷修編 筑摩書房
- 山本 もと子 2003 「感謝の謝罪表現 —「すみません」が感謝と謝罪の両方の意味を持つわけ—」
『信州大学留学生センター紀要』第4号

言語資料

- 鎌田 敏夫、畑 嶺明 1997 『職員室』日本文芸社.
- 北川江吏子 2000 『Beautiful Life』角川書店
- 倉本 聡 1988 『北の国から』理論社
1999 『玩具の神様』理論社
- 野沢 尚 1999 『眠れる森』幻冬社
2000 『リミット』中央公論新社
- 三谷 幸喜 2000 『合い言葉は勇氣』角川書店
- 山田 太一 1997 『ふぞろいの林檎たちⅣ』マガジンハウス

	話手・男が 聞手・男より			話手・男が 聞手・女より			その他	話手・女が 聞手・男より			話手・女が 聞手・女より			その他	横計
	年下	同年齢	年上	年下	同年齢	年上		年下	同年齢	年上	年下	同年齢	年上		
すみ/いせん・スミ/イセン	26	2	16	10	2	11	1	18	1	2	7	2	5	5	108
すみせんっ	2														2
すみ/いせんでした	9	1		1		2				2					15
すみ/いせん・スミセン	3						4	1						1	9
すんせん	2														2
すみましえん											1				1
すまん			2												2
すません (あくびしながら)	1														1
すまない			2												2
すまないと思ってる						1									1
すみ/いせんが			1			1								1	3
すまんが	1														1
ごめん・ゴメン	3	1	5	3	5	13		18	7	1		6			62
ごめんごめん・ゴメンゴメン			1			2						1			4
ごめん												1			1
ごめんね・ゴメンね	1	1	4			9		9	6	4		3	8		45
ごめんねえ			1							1					2
ごめんな					1	1									2
ごめんよお			1												1
ごめんなさい・ゴメンサイ	8		4	5		1		30	5	5	4		1	3	66
ごめんなさいっ	1														1
ごめんなさいね								1		3			1		5
ごめんなさいです												1			1
ごめんください							1							1	2
悪い・ワルイ			6			4		1							11
ワルイ						2									2
悪いね			4					1							5
悪いな		1	5			2	1								9
悪かった	2					1	1								4
悪かったね						2									2
悪かったな		1													1
悪かったよ						1	3								4
悪かったわねえ													1		1
悪いことしたな			1												1
悪いとは思ってるけど				1											1
悪かったと思ってる					1										1
悪かったって思ってたんです					1										1
悪いけど			5	1		2		1							9
悪いんだけど	1							1							2
悪いが			1												1
この間は悪かったな				1											1
申し訳ない	1	1	10			1									13
申し訳ないな	1														1
申し訳なかったね	1														1
申し訳ありません	4	2	3			1		1				1			12
申し訳ありませんでした	1														1
申し訳ございません									3						3
申し訳ございませんっ	1														1
申し訳ございませんでした	1														1
申し訳ないが		1	3	1		1									6
申し訳ないけど						1									1

	話手・男が 聞き手・男より			話手・男が 聞き手・女より			その他	話手・女が 聞き手・男より			話手・女が 聞き手・女より			その他	横計
	年下	同年齢	年上	年下	同年齢	年上		年下	同年齢	年上	年下	同年齢	年上		
申し訳ないと思ってる	1														1
許してほしい					1										1
許してください				1											1
勘弁してくれ	1		1			1									3
勘弁してくれよ			1												1
勘弁してくれないかな			1												1
勘弁してください	1														1
お邪魔します										1					1
お邪魔しました		1	1					1							3
お邪魔してます								1							1
失礼	1						1				1				3
失礼します	3	3	1							1					8
失礼させていただきます								1							1
失礼だけど										1					1
失礼ですけど										1					1
私は謝罪します														1	1
謝ります	1														1
謝るよ						1									1
謝っといてください				1											1
ご迷惑かけちゃって								1							1
縦計	78	15	80	26	16	60	7	86	19	23	13	17	16	12	468

